

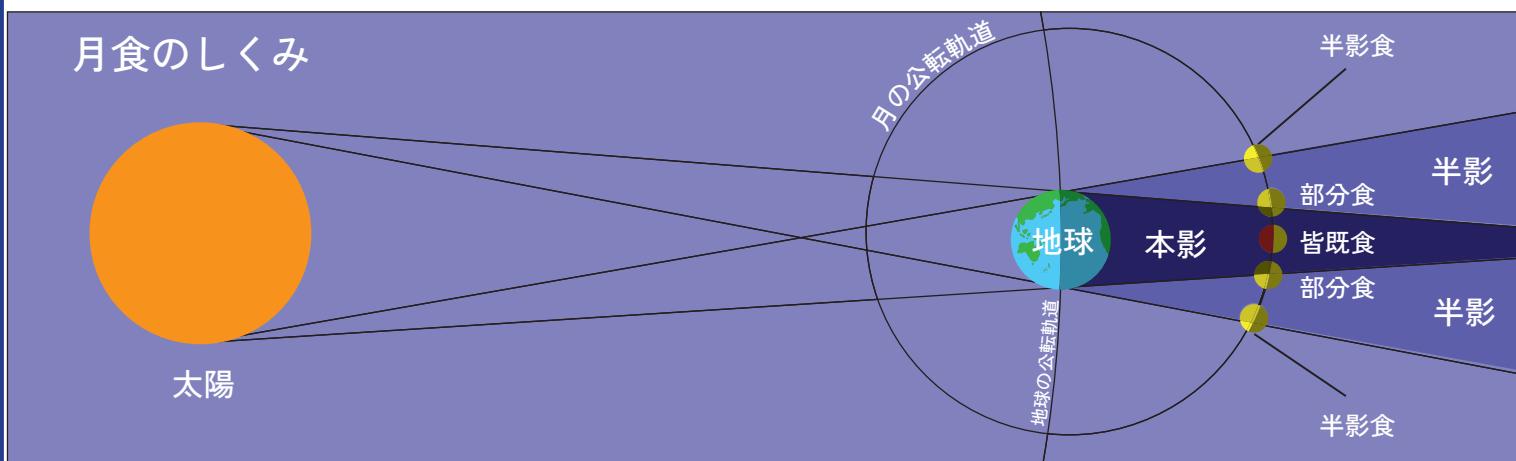
2026年3月3日 皆既月食をみよう！

日本で約半年ぶりとなる「皆既月食」が日本全国で見られます。皆既月食では、満月が欠けていき、赤黒い色に変わります。特別な道具がなくても、月が見えるところであればどこでも月食を楽しめます。

月食とは？

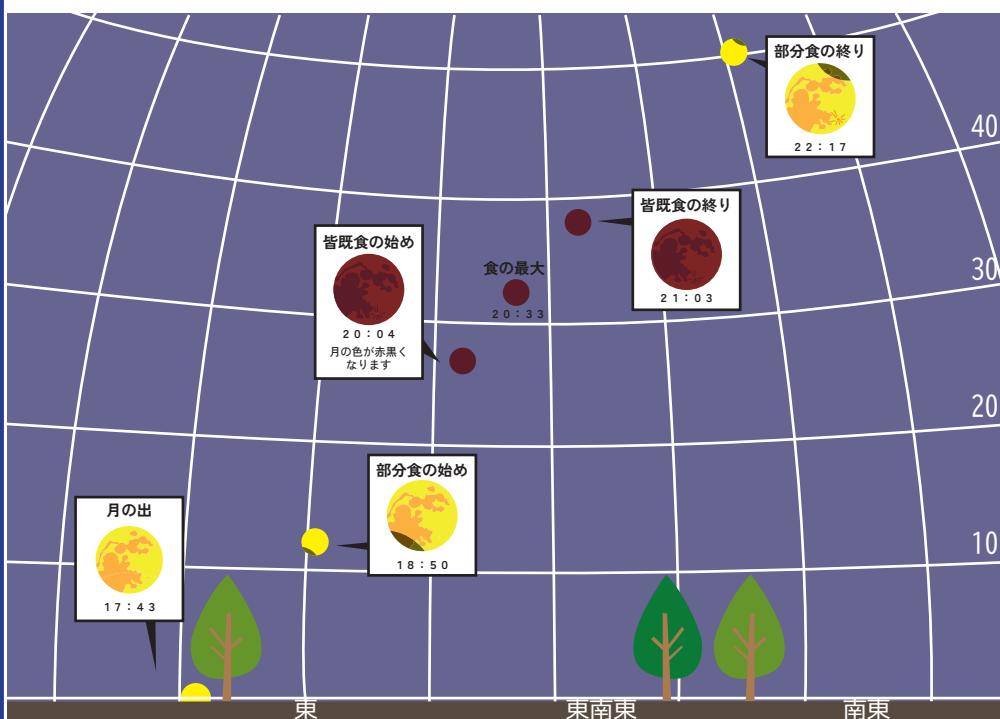
「月食」は、満月がゆっくりと欠けていく天文現象です。満月の夜、太陽 - 地球 - 月が一直線に並ぶときにだけ起こります。地球の影の中を月が通り、月が欠けたように見えます。地球の濃い影（本影）に月の一部だけが入るのが「部分月食」で、地球の濃い影に月が全て入るのが「皆既月食」です。

2026年3月3日（火）、日本全国で皆既月食が見られます。



どんな風にみえる？

18時50分ごろから、月がゆっくりと欠けていく「部分食」がはじまります。南東の空がひらけたところで探しでみてましょう。20時過ぎに、月が地球の影に完全に入り「皆既食」となります。皆既食中の月は「赤銅色」と呼ばれる赤黒い色に見えます。皆既食は約1時間続き、22時20分ごろにもとどおりの満月に戻ります。



京都府での見え方

(北緯35.02度、東経135.75度)

東の空がひらけたところで観察しましょう。

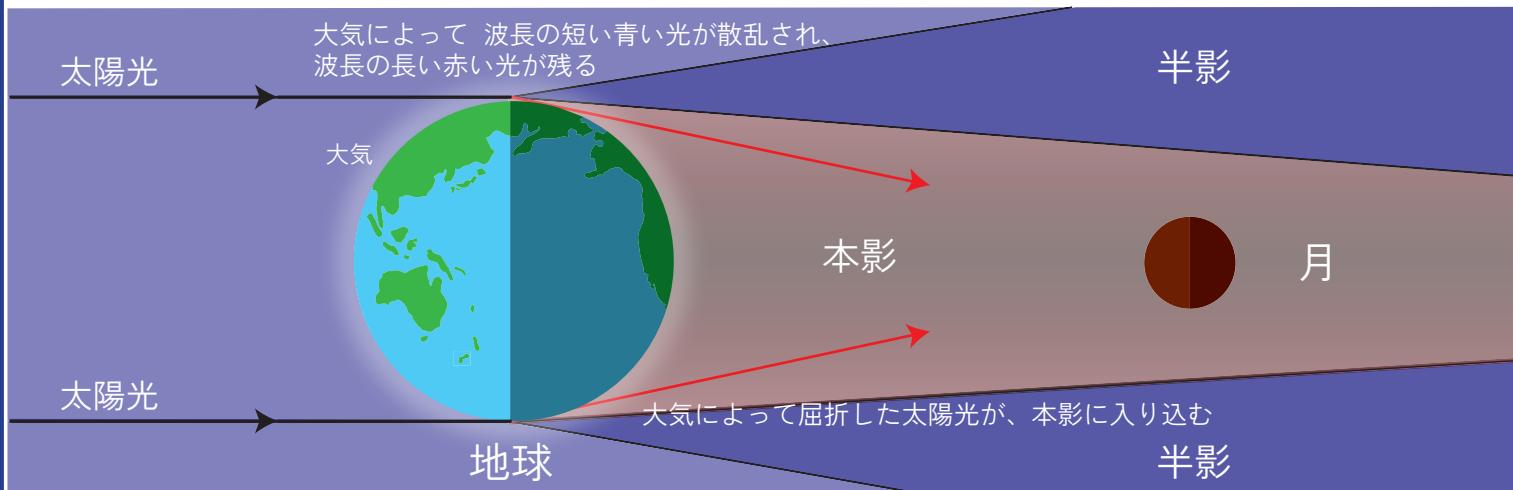
	時刻	月の高度
月の出	17:43.4	-0.2度
部分食の始め	18:49.8	12.2度
皆既食の始め	20:04.0	26.7度
食の最大	20:33.7	32.4度
皆既食の終り	21:03.4	37.9度
部分食の終り	22:17.6	50.3度

（ステラナビゲータ12、国立天文台の情報をもとに作成）

皆既月食はどんな色？

月が地球の濃い影（本影）に完全に入り込むと「皆既月食」が起こります。皆既中の月は真っ暗になって見えなくなるわけではなく、「赤銅色」と呼ばれる赤黒い色に見えます。

地球の大気では、赤よりも青い光のほうが散乱してしまいます。つまり、太陽光が大気を通る時、青よりも赤い光のほうが、たくさん大気を通りぬけることができます。残った赤色の光が月に届き、反射した光が地球に届くことによって、月が赤黒く見えます。



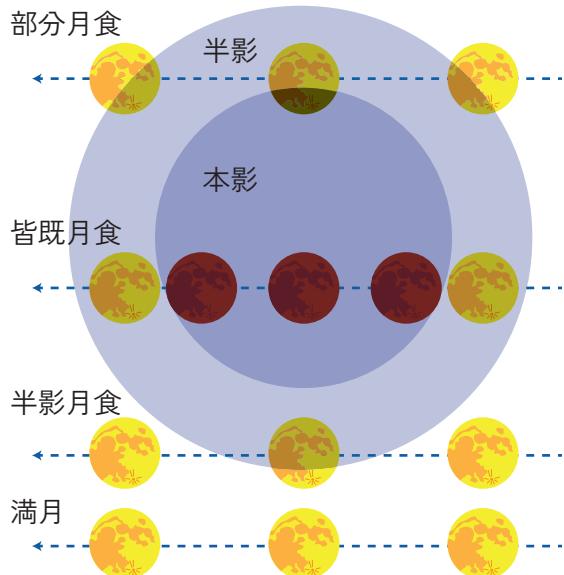
満月のたびに月食が起こらないのはどうして？

月食は満月の夜におきますが、満月の夜が必ず月食となるわけではありません。地球が太陽の周りをまわる軌道（道筋）の面と、月が地球の周りをまわる軌道面は、およそ5度ずれているためです。このずれのために、いつもは地球の影が北か南にずれて、月食が起こりません。月食は、太陽 - 地球 - 月が一直線に並んだ時にのみ起こります。

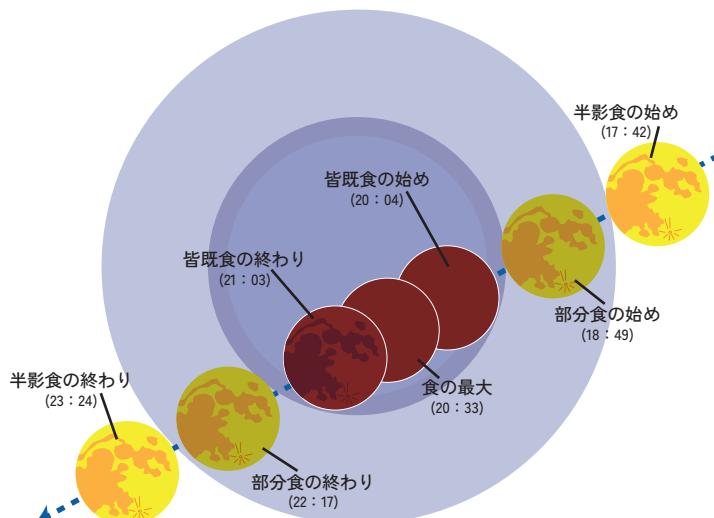
皆既月食...月の全部が地球の濃い影（本影）に入る

部分月食...月の一部が地球の濃い影に入る

半影月食...月の一部または全部が地球の薄い影（半影）に入る



皆既月食を観察しよう！



特別な道具はいりませんが、望遠鏡や双眼鏡があると、月の色の変化などがわかりやすく、月食をもっと楽しめます。

前回 2025年9月8日の皆既月食などは、月は本影の真ん中近くを通り、皆既食の時間が82分ほどありました。今回の月食でも、皆既食となっている時間が1時間近くあります。皆既食中の赤銅色の月は暗く見つけにくいため、部分食から観察するのがおススメです。

次回日本でみられる月食は、部分月食が2028年7月7日、皆既月食は2029年1月1日で、年が明けるとすぐに月が欠け始めます。